

自国を守る税

大阪市立相生中学校3年
中峯 澄香

税金のイメージといえば、納税は義務だから仕方がないとか、できれば払いたくない厄介なものなどというマイナスなイメージしか湧きませんが、実際に私はまだ納税していないし、唯一支払っているであろう消費税でさえ、元はと言えば親からもらったお金なので、実際に納税している両親に、税金について聞いてみたところ、母がとても興味深い話をしてくれました。

母は大学生の頃、カナダに留学していました。そして、生活していくうちに、カナダの税金がとても高いことに気がついたそうです。買い物をして、レシートを見ると、日本の消費税のような表記が二つあり、しかも、どちらも日本の消費税より随分高かったそうです。母はホストファミリーにカナダの税金がとても高いことについて聞いてみました。すると、その答えが予想外のものであったそうです。

ホストマザーは、「私達カナダ人は、少ない人口でこの広大な国土を持つカナダを守っていかなければならない。だから、国民一人一人の負担は大きくなるけれど、喜んで納税している。なぜなら、私達はカナダを心から愛しているから。」と、とても誇らしくそう答えたそうです。母はその言葉を聞いた時、色々な感情が芽生え、それを機に税金に対する考え方が変わったと言います。

母は、そんな風に自分の国を愛しているからこそ納税するのだと考えている人が、日本中にどれくらいいるのだろうかという疑問に思いました。母は、自分が社会に出て納税者になった時、義務だからだけではなく、当たり前前に感じている日本の平和に心から感謝しながら生きていかなければならない、そして、きちんと納税の義務を果たす社会人になり、日本を大切に思いながら生きていきたいと思ったそうです。日本を大切に思う気持ちが納税にもきつと繋がると、ホストマザーから教わったのだと。

母の、税金に関する体験談を聞き、私が今まで持っていた税金に対するイメージが変わりました。日々のネットやニュースでは、「増税」という言葉がよく聞かれ、やはり税金は悪者扱いされているように感じます。しかし、私達が今こうして平和で快適な生活ができているのは、やはり国民がきちんと納税しているからなのは間違いないと思います。海外からの観光客が多いのも、日本は平和で清潔で治安が良いということがとても重要な要素であるはずで、そんな日本であり続けるには、やはり税金が必要なのです。私が近い将来、社会に出て納税者になった時、私が一生懸命働いて納めた税金が大切に使われる日本であってほしいと思います。そして、私も日本を守っていく存在になりたいと思いました。